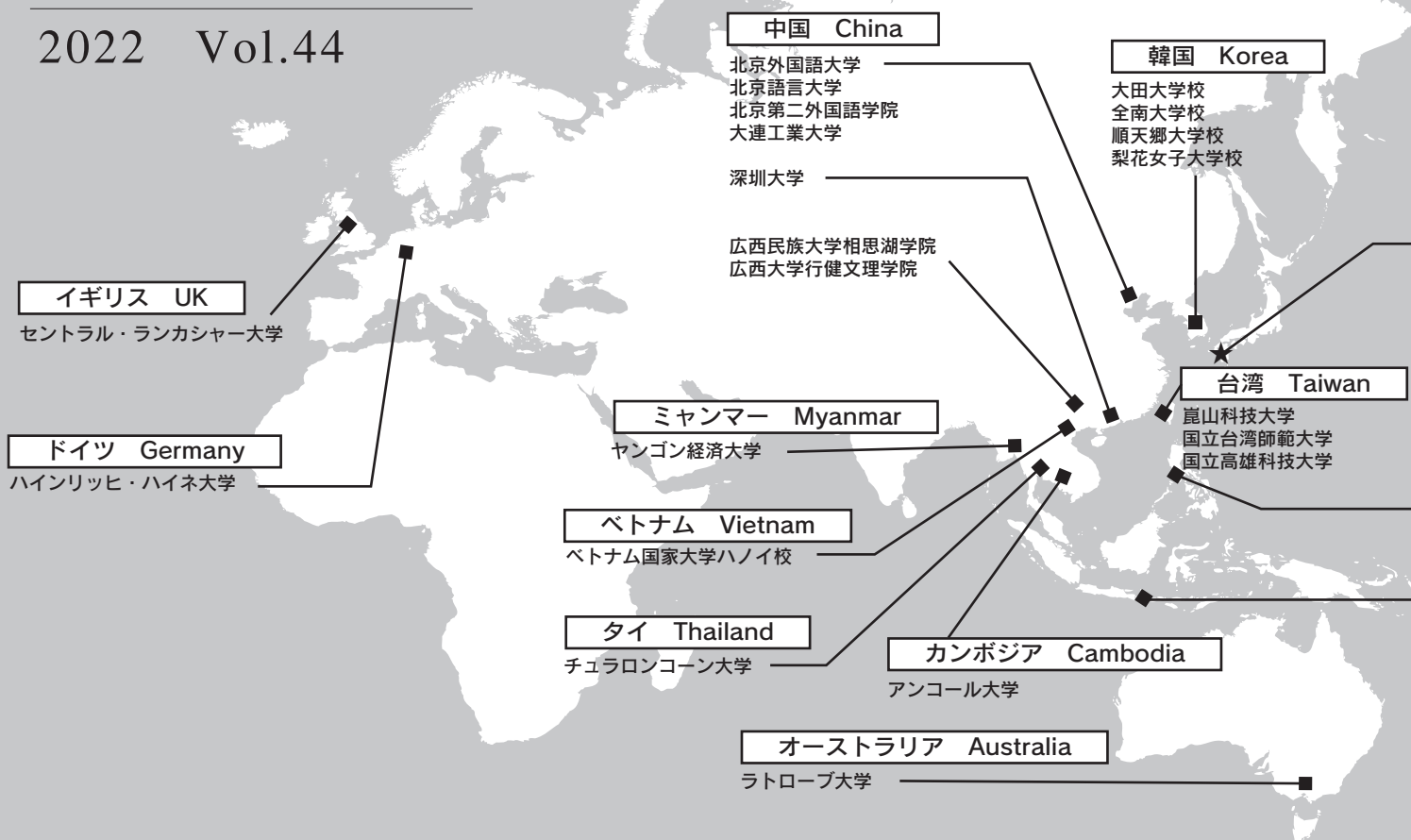


国際交流レター

2022 vol.44

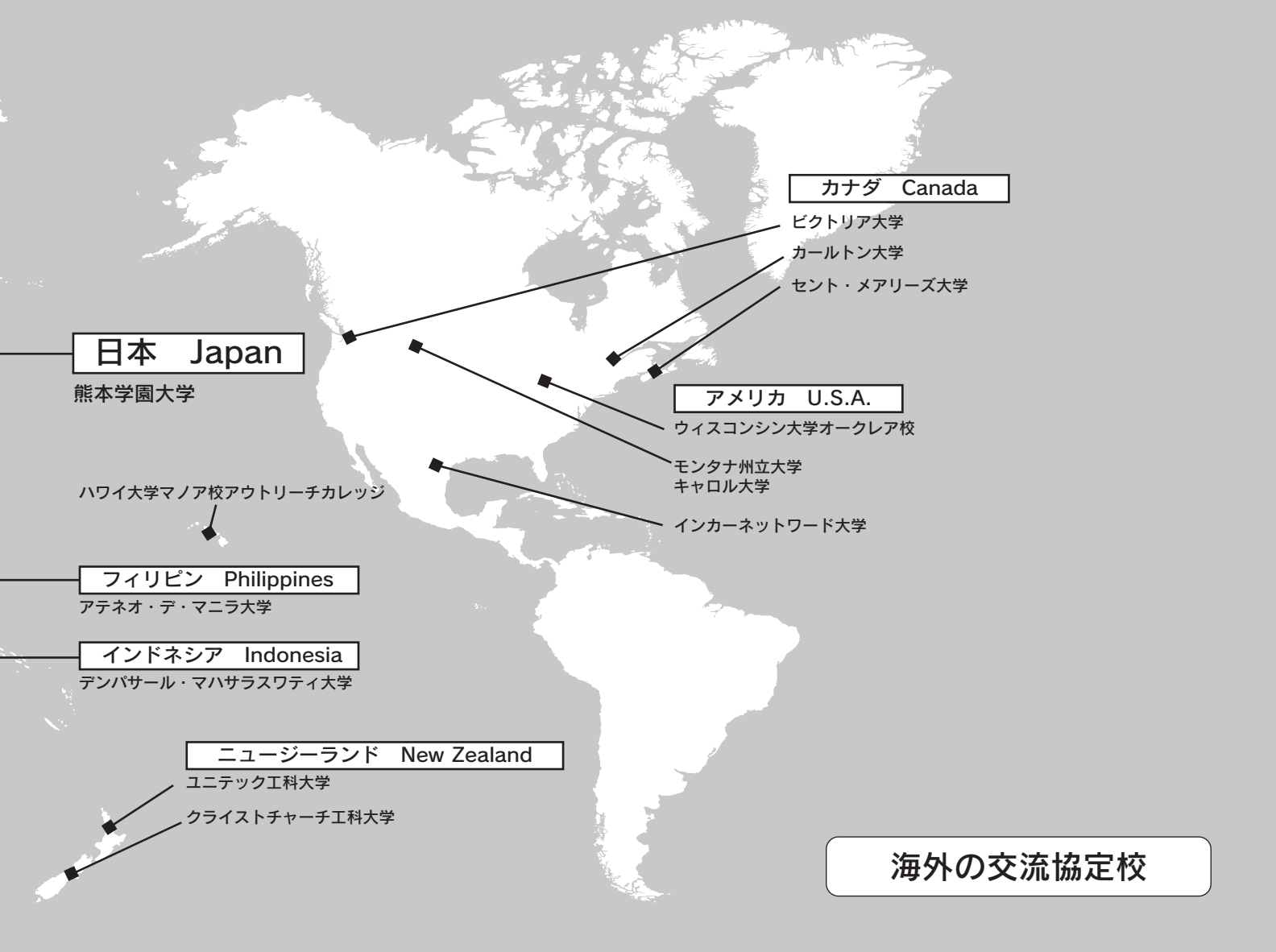
International Exchange Letter





目次

巻頭言	学長 細江 守紀 国際交流委員長 浪本 浩志	2
TOPICS	第 32 回外国人留学生弁論大会 中国・広西壮族自治区の 2 大学とのオンライン交流	4
TOPICS	留学生カフェを紹介します。 李 禮恩 (ホスピタリティ・マネジメント学科 4 年) Tse, Kenji (東アジア学科 4 年)	5
TOPICS	学部間交換留学 社会福祉学部とハインリッヒ・ハイネ大学人文学部の交流 小野寺 蓮桜 (ライフ・ウェルネス学科 5 年) Tylus, Marco (社会福祉学科 3 年) Pöttsch, Zoé (社会福祉学科 3 年)	6
交換教員	馮 建民 (令和 4 年度交換教員受入 中国・深圳大学) 朴 哲洙 (令和 4 年度交換教員派遣 中国・深圳大学)	7
交換留学体験記	Hilyard, Gage (ホスピタリティ・マネジメント学科 4 年) Salami, Olakunle (商学科 4 年) 金 佳嬪 (ホスピタリティ・マネジメント学科 4 年) Nguyen Hoang Long (ホスピタリティ・マネジメント学科 3 年) 田中 優香子 (英米学科 4 年) 松村 惟羽那 (英米学科 3 年) 宜志富 未来 (東アジア学科 3 年) 吉田 周代 (東アジア学科 3 年)	9



オンラインプログラム体験談	佐村 花穂 (英米学科 3 年) 工藤 黎音 (東アジア学科 1 年)	13
オンライン留学サロン体験談	椋木 翔太 (ホスピタリティ・マネジメント学科 2 年) 松原 帆乃加 (東アジア学科 3 年) 姜 鴻毅 (中国・北京第二外国語学院日本語学部 2 年)	14
留学生カフェ体験談	村上 裕香 (商学科 1 年)	15
国際交流の窓	学園大で学ぶ私費外国人留学生を紹介します。 張 晟銘 (商学科 1 年) Hoang Thi Huong (ホスピタリティ・マネジメント学科 1 年) 留学生と一緒に阿蘇・杵島岳に登りました！	16
DATA	令和 4 (2022) 年 海外往来実績 令和 4 (2022) 年度 オンラインプログラム派遣及び国際交流の実績 令和 4 (2022) 年度 研修団往来、海外への派遣学生数 令和 4 (2022) 年度 出身国・地域別外国人留学生数 令和 4 (2022) 年度 留学生の主な参加行事 国際交流委員会メンバー (2022 年 4 月～) 国際教育課スタッフ (2022 年 4 月～)	17



開かれた世界を目指して — 国際交流 40 年のあゆみ

ほそえ もりき
学長 細江 守紀

沿革に見る熊本学園大学は、1942年、海外雄飛の志をもって東洋語学専門学校として設立され、1950年昼夜二部制の「熊本短期大学」、1954年に四年制大学の「熊本商科大学」が誕生しました。1994年、外国語学部と社会福祉学部を新設するとともに「熊本短期大学」「熊本商科大学」を統合し、大学名を「熊本学園大学」へと変更。設立以来の海外雄飛の精神は、大学へと昇華し、本学の国際交流に今も一貫して受け継がれています。1982年にアメリカモンタナ州の諸大学との姉妹大学提携の締結以来、1985年に韓国大田大学校、1987年には中国深圳大学との姉妹大学提携に調印し、交換教員及び交換留学生の相互派遣、また研修団の相互派遣と多彩な国際教育、国際交流活動を展開してきました。1990年、熊本市の留学生交流事業に協力し、アメリカサンアントニオ市のインカーネーション大学並びにアワレディーオブザレイク大学へ交換留学生を派遣。その後本学は、イギリスのリバプールジョンモーズ大学を皮切りに、フランスのリヨン商科大学、ドイツのラインランド・プファルツ州立経済大学などヨーロッパに交流を広げました。1995年には熊本市と中国桂林市との留学交流事業が12年ぶりに再開し、本学からも広西師範大学へ派遣を行いました。

1997年、本学は国際交流の理念を「友好・親善」から「研究・教育」へと発展させるべく、プログラム改革を行います。学生のニーズの高い英語圏と中国語圏に留学先大学の拡充を図りました。また、1998年には交換留学生の宿舎として待望の国際交流会館が落成し、拡大する留学プログラムの一翼を担います。2000年には東南アジアに目を向けベトナム国家大学ハノイ校、タイのチュラロンコン大学と大学間交流協定を締結し交換留学生の相互派遣と研修団の派遣を開始しました。『国際交流レター Vol.44』 本号 18 頁にこの40年間の派遣記録が掲載されています。

大学間の国際交流に加えて、学部教育におけるグローバル化につれて海外教育機関と学部とで協定を提携する学部間交流協定の締結が相次ぎました。経済学部においては、私が経済学部

長を務めた2017年にはカンボジアのアンコール大学とミャンマーのヤンゴン大学、また2019年にインドネシアのデンパサール・マハサラスワティ大学と協定を結びました。ここ数年のコロナ禍にあつて経済学部ではオンラインでの学生交流を実施しています。

本学の国際交流は1982年から語られることが多いのですが、『国際交流レター』をひも解いていくとその創刊号（1983年5月6日創刊）には、本学の「古くかつ多彩」な諸活動が記録されています。本学は、熊本県が行っている海外移住者子女の県費留学生を1962年から研究生として受入れてきました。その後研究生制度をベースに1981年度からは私費外国人留学生を受入れています。1983年には外国人留学生向けに入学試験制度が始まり、熊本商科大学に2名、熊本短期大学に2名が入学します。それから10年後には、100名を超える私費外国人留学生を有する大学へと成長していきます。授業料減免制度や本学独自の留学生向け奨学金制度が設けられるなど、私費外国人留学生への経済支援は現在も継続しています。

本学を巣立った派遣学生や留学生は、自らの留学経験を生かし社会で活躍する一方、留学当時に受けた物心両面の支援への恩返しとして、これから海外を目指す学生やいま本学で学ぶ留学生のために奨学金という形で経済支援を申出の方もおられます。たいへんありがたいことです。

2022年5月30日、本学は学園創立80周年を迎え、その先の創立100周年の礎の構築に向け持続できる大学を実現するため、私たちはすでにスタートをきりました。予測不可能な世界情勢の変化、熊本に興る国際的なヒト、モノ、カネの流れへの期待、いつの時代の若者も抱く雄飛の志、これらに私たちが全学をあげて応えていくことが、盤石な礎の構築には不可欠です。20年後の2042年、国際交流は60周年、人でいう還暦を迎えます。学生諸子、教職員諸子が織りなす交流の様はさぞかし充実していることでしょう。

ここに一筆国際交流40年のあゆみを記し、後世への記録に留めるものとします。



人口減少社会と「国際交流」

なみもと ひろし
国際交流委員長 **浪本 浩志**

厚生労働省の人口動態統計速報によると、2022年の出生数は80万人を割り込む見通しとなった。また、総務省統計局の人口推計によると人口の自然減（その年の出生数が死亡数を下回ること）が15年連続しており、かつその減少幅も2021年に60万人を超え拡大している。今後もこの傾向はつづく見込みであり、我々は人口減少社会のただなかにいるといえるだろう。

日本が直面している人口減少社会を、「国際交流」という文脈に引きつけて考えてみると、さしあたり以下の2つの側面から広い意味での「国際交流」の機会が今後増加すると言えそうである。ひとつは、人口減少にともなう①国内市場縮小による側面であり、もうひとつは②国内労働力が不足する側面である。

まず、①についていえば、商品やサービスの国内需要が縮小し、その代替的な市場として海外市場がターゲットとなることが想定される。日本の国内市場のみを相手に事業活動を展開してきた日本企業が海外展開をはじめること、また、すでに海外展開している日本企業が海外事業を加速させることでビジネスを通じた「国際交流」の機会が増加すると考えられる。とりわけ、今後人口の増加が予測されるアジア地域は日本企業にとって魅力的な市場としてすでに位置づけられている。

近年、政府はTPP（環太平洋パートナーシップ協定）や米国離脱後のTPP11、日EU・EPA、RCEP（地域的な包括的経済連携協定）など様々な経済連携協定の締結に取り組んできており、報道等で目にした方も多いのではないだろうか。これらの国際条約の中身は多岐にわたるが、その狙いのひとつは、国内市場を条約締結国の市場に拡

張させるところにある。日本国内に供給されていた商品やサービスをシームレスに海外市場に展開するための仕組みと言ってもいいかもしれない。

つぎに、②について、生産年齢人口（15歳から64歳）も1995年をピークに減少に転じ、今後ますます労働力の不足が深刻化することが予想される。現在でも不足しつつある労働力は、高齢者や女性に加え一部の外国人によって補われている。自動運転やドローン、AI、ロボット技術等の進展や生産性向上のための施策は労働力不足を補うものとして重要性が高まる一方、日本の職場環境で外国人を見かける機会が増えることが想像できる。実際、2018年の出入国管理法の改正により、様々な職種において外国人労働者の受け入れ方針が採用され、昨年からは技能実習制度の抜本的な見直しも議論されている。

以上みたように、人口減少にともなう①や②の側面から具体的にいえば、たとえば仕事の出張先や転勤先が国内であったものがアジア地域に置き換わったり、たとえ国内で生活していたとしても日常生活の様々な局面で日本で働く外国人やその家族とコミュニケーションをとる機会が増えるように思われる。

本学の国際交流プログラムでは長期の交換留学をはじめ1ヶ月以下の短期プログラム、オンラインプログラムなど多様なスタイルで提供されている。また、キャンパスには海外からの留学生がおり、彼ら彼女らとの交流も日常的に可能である。入学以前には海外留学等を考えていなかった学生の皆さんも、本格的な人口減少社会の到来を見据え、在学中に「国際交流」の第一歩を踏み出してみたいかがだろうか。



第32回外国人留学生弁論大会

12月10日(土)に外国人留学生弁論大会を開催しました。今回の大会は、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に努めながら3年ぶりの対面での実施となり、2ヶ国から8名の外国人留学生が参加しました。本大会は、本学に在籍する外国人留学生が、彼らの日本語能力の向上を図ると共に日本人との相互理解を深めることを目的としています。出場者は、一生懸命準備をして、それぞれの思いを緊張しながらも練習を重ねた素晴らしい日本語で堂々と発表しました。

最優秀賞は、中国からの留学生ヨウ ロさんでした。ヨウさんは「生活の中のプチハッピー」と題し、熊本に来てから受けた何気ない親切に心が温かくなり、幸せを感じたこと、次には自分がプチハッピーを伝えたいと発表しました。また、グエン ホアン ロンさん(ベトナム)とオン ガブンさん(中国)が優秀賞に選ばれました。グエンさんは自身の努力によって夢だった日本への留学を叶えたことや、夢を叶えるために努力する大切さについて力強くスピーチし、オンさんは日本人は優しく何でもすぐに褒めてくれるが、それは思いやりの表れだと気づいたことを感情豊かに発表しました。



<後方左から>

石貫文子商学部准教授(審査員)
浪本浩志国際交流委員長(審査員長)
グエン ホアン ロン、リョウ シュンケツ
コウ ホウ、川田亮一商学部准教授(審査員)

<前方左から>

リュウ ライ、リ センリン、オン ガブン
ヨウ ロ、バク シテイ

受賞者一覧

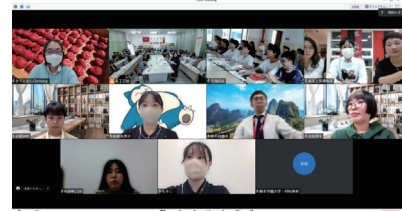
最優秀賞	経済学部 経済学科 2年	ヨウ ロ	(中国)	生活の中のプチハッピー
優秀賞	商学部 ホルティ・マネジメント学科 3年	グエン ホアン ロン	(ベトナム)	私が日本に留学するために努力していたこと
	外国語学部 東アジア学科 3年	オン ガブン	(中国)	何でも褒めてくれる日本人
奨励賞	外国語学部 英米学科研究留学生	リョウ シュンケツ	(中国)	彼女はそんな僕でも見捨てない
	外国語学部 英米学科研究留学生	コウ ホウ	(中国)	為すことも為さざることもある
	大学院 国際文化研究科 2年	バク シテイ	(中国)	熊本学園大学と私
	経済学部 経済学科 4年	リュウ ライ	(中国)	私の高校時代のこと
オーティエンス賞	経済学部 経済学科 4年	リ センリン	(中国)	私の大学
	外国語学部 東アジア学科 3年	オン ガブン	(中国)	何でも褒めてくれる日本人

中国・広西壮族自治区の2大学とのオンライン交流

熊本県と中国・広西壮族自治区の友好交流締結40周年を記念した青少年交流事業の一環で熊本県上海事務所の仲立ちにより、広西壮族自治区の2大学とオンライン交流会を行いました。第1回目を9月23日に広西大学外国語学院(南寧市)と、第2回目を11月21日に広西外国語学院(桂林市)と開催しました。

今回の交流は、双方の大学から3名の代表者が各自でテーマを決め中国語や日本語で発表し、その後は全参加者が自分の話したい言語で相互に質疑応答を行う意見交換の時間を設けました。広西からは「大学紹介」「南寧我が街」「南寧の郷土料理と文化」「桂林のグルメ」「壮(チワン)族の風習」について学部生、大学院生が発表しました。本学からは大学紹介や熊本県の紹介に加え「熊本の郷土料理」「日本語のオノマトペ」※をテーマに発表しました。交流の時間では日中のオンラインゲームや映画について、サッカー選手へのあこがれ、ボランティア活動を通じた社会貢献などについて意見が交わされました。両国の伝統的な風習や食文化の特徴は、民族や気候など地域の特性が際立つものでお互いの相違点として知ることができ、更に広西や熊本への興味を沸き立たせるものとなりました。また、大学生の興味・関心事には共通点が多くあることもお互いの発見となる交流会でした。

※擬声語・擬音語



TOPICS 留学生カフェを紹介します。

新型コロナウイルス感染症が流行し始めて3年目に入り、これまで止まっていた交換留学生の受入・派遣もようやく再開しました。しかし、オンライン授業や従来とは異なる形でのイベント開催などにより留学生が他の学生と出会い、交流する機会は以前より減少しました。そんな中、「日本人の学生と交流したい」、「自分の母国語を教えたい」という留学生の声から、2022年春に「留学生カフェ」は始まりました。

現在は6カ国・地域から留学生9名がカフェを開いており、留学生を含め日本人学生延べ120名の学生が参加しています。繰り返し参加する学生も多く、学生同士がつながる場になっています。

出会いの機会

ホスピタリティ・マネジメント学科4年 **李 イェウン 李 禮恩**
 【2022年4月～2023年3月】
 韓国・大田大学校からの交換留学生

留学生カフェ「イェウン・ガビンの部屋」を17回開き、延べ31名の学生が参加しました。

留学生カフェは一言で言えば「出会いの機会」だと思います。

まず、留学生カフェを通じて語学力を向上させることができました。韓国語も少し使いましたが、主に日本語で話しました。また、熊本の方言や日本だけで使う表現についても学ぶことができ嬉しかったです。二番目に韓国の文化や日本の文化について話して、お互いの文化に対する理解度を高められました。



熊本の友達くまモンと・・・

た。三番目に上手な対話ができるようになりました。内気で口数も少ない方なので留学生カフェが楽しみというよりは心配でした。初めての時は大変でしたが、毎週新しい学生たちと話してみると、見知らぬ人と対話をする能力が育てられました。最後に新しい縁ができました。この出会いが偶然か運命かは分からないけど、留学生カフェを通じて出会った学生たちといい関係を築くことができました。

留学生カフェが終わった今、考えてみると、留学生カフェに参加してくれた学生全員に感謝しています。おかげで多くのことを学び、留学生活が豊かになったと思います。この文を読んでいる学生に留学生カフェに参加することを勧めます。珍しい経験を通じて大学生活での思い出になるかもしれないし、思いがけない縁が得られるかもしれないです。



留学生カフェの様子（筆者は中央）

文化学習体験

東アジア学科4年 **Tse, Kenji**
 【2022年9月～2023年8月】
 オーストラリア・ラトロープ大学からの交換留学生

留学生カフェ「ケンジの部屋」を2回開き、延べ2名の学生が参加しました。

私の交換留学は9月に始まり、それ以来、いろいろな文化、言語、生活を経験しました。私は多くの日本文化を経験しただけでなく、多く外国の文化も学びました。

9月から今まで、私は熊本学園大学の国際交流会館に住んでいて、そこにはさまざまな国籍の学生が住んでいます。この5ヶ月にわたって各国・地域からの留学生と異文化交流をしました。私はさまざまな文化の側面や見方を学びました。アジアの文化だけでなく、西洋の文化にも知識を深めることができ、面白いと思いました。

留学生との交流だけでなく、留学生カフェを開いたことで多くの日本人学生と出会うことができました。日本人との交流を通じて、たくさんの地元の文化を学びました。例えば、地方の方言、地方の文化、日本語のスラングなど、さまざまなことを学びました。また、お正月にお寺に参拝したり、日本でクリスマス体験したりと、多くの日本文化を体験する

ことができました。

留学が終わる前にもっと異文化を体験したいです。また、たくさん友達を作りたいです。そして私の最終的な目標は日本語が上手になることです。



留学生と一緒に熊本駅のイベントに参加（筆者は左側）



明治神宮 元旦



異国での日常生活

社会福祉学部ライフ・ウェルネス学科5年 おのでら れお **小野寺 蓮桜**
[2022年9月～2023年7月
ドイツ・ハインリッヒ・ハイネ大学へ交換留学]

留学の際、多くの人が目標・目的を持って留学に臨むと思います。その目標・目的を達成するために様々なことに挑戦し、努力することで、留学生活が充実したものになることは間違いありません。しかし、必ずしも目標・目的を持って留学に臨む必要はないのではないかと考えています。

私は留学について、今までの大学生活を違う国で送るだけだと考えています。生活する国が違うと当然、話す言語が異なり、文化が異なり、考え方が異なるため、自身にとって経験の無いことの連続です。

それらの初めての経験は、これから先の人生において使えることは多くないかもしれませんが、それでも、その経験は、自身の知識・考え方に深みを出してくれ

ます。日本でだけで生活してきた人に真に多角的な視点が持てるでしょうか？

このように私は、留学生活を送るにあたって確固たる目標・目的を持って生活するのではなく、私がかつての人生で経験したことが無い日常生活を送りました。ただこの受動的ではあるが、日本では経験できない日常生活はとても素晴らしいものであり、可能な限り多くの人に経験してもらいたいものです。



寮での食事会
(筆者は前列)



ルームメイトたちと
美術館へ行きました
(筆者は右から2番目)

熊本学園大学での経験

社会福祉学科3年 タイラス マルコ **Tylus, Marco**
[2022年4月～2023年3月
ドイツ・ハインリッヒ・ハイネ大学からの交換留学生]



日本人の友達にドイツ語を教える

もう一度九州で暮らしたいと思い、熊本学園大学を選びましたが、国際教育課のサポートに圧倒されました。僕は、2年間閉ざされていた日本の国境が再び開かれた直後に

熊本に来たのですが、この大学は決して僕を見捨てず、留学を延期することさえ許してくれました。

この大学は素晴らしい教育の機会を提供してくれ、スタッフや学生も非常に歓迎し、助けてくれました。日本語の授業のおかげで、私の日本語はわずか数ヶ月でかなり上達しました。熊本で過ごす残りの時間を楽しみにしていますし、素晴らしい経験を求めている人にはぜひお勧めしたいです。



サクラマチでくまモンと一緒に

9000 キロの距離

社会福祉学科3年 ペッツチゾエ **Pöttsch, Zoë**
[2022年9月～2023年8月
ドイツ・ハインリッヒ・ハイネ大学からの交換留学生]

9000 キロの距離が、母国ドイツ、家族、友人と私を隔てている。新しい友情と経験の期待が、私を熊本に駆り立てた。九州に来るのは初めてではないが、この自然や人々の穏やかさを好んでいるので、また来ることを決め、この決断を全く後悔していない。これまでの5ヶ月間で、国際教育課のスタッフの面倒見の良さと、学生や先生方のオープンな性格を体験してきた。幸いなことに、大学では留学生カフェや様々なイベントといった日本人と交流できる機会がたくさんあり、日本語がとても上達したと思う。9000 キロの帰路につくまで、残り7ヶ月でどんな経験をするのか楽しみにしているが、自分の未来に大きな期待を持っている。



初めてのドリア

熊本再訪

中国・深圳大学 馮 ケン ミン

【2022年3月～2023年2月 中国・深圳大学からの交換教員】

今日2022年12月23日、熊本のこの寒い冬の夜、私はついに論文の校正が終わり、International Journal of Economic Policy Studies (IJES) の論文投稿システムにアップロードし、熊本学園大学での教育研究活動がほぼ完了しました。この一年の熊本学園大学での生活や教育研究活動の思い出を振り返れば、忘れられない場面がいくつも頭に浮かびます。

私はかつて2001年9月から翌年2月まで熊本学園大学を交換教員として訪問しましたので、今回の訪問は旧居再訪とも言えます。この20数年来、私は熊本に関わるすべてに深く魅了され、熊本学園大学の変化と発展に非常に関心を持っていました。2019年年末にコロナウイルス感染症の流行以降、国際交流は非常に困難な状況となり、当初予定していた熊本行きもその影響を受けました。

2022年初頭、日本の水際対策の緩和後、北原さんの渡航・入国案内のおかげで無事に日本に入国することができました。私は北原さんに会ったことはありませんでしたが、出口ゲートで心配そうに待っている女性私を見ているのに気付いて、直感で彼女だと分かりました。その時期は真冬ではありませんでしたが、まだ少し寒い時期でした。私は朝一の便で熊本に到着したので、北原さんはきっと寒い中朝早く起きて来てくれたのだと思います。

熊本に到着して最初は、コロナの水際政策により3日間は自宅隔離しなければなりません。その間切通さんと北原さんには大変お世話になりました。マンションには、寝具はもちろん新しい調理器具まで日用品はすべて揃っていました。隔離期間中の私の食事まですべて準備されていて、切通さんたちが毎日私に食事を届けてくれました。細やかな配慮と対応に私はまるで本当の家のようにつづることができました。

特に印象に残っているのは、春のピクニックと秋のバスハイクです。春のピクニックは、国際教育課の皆さんの案内で留学生たちと共に水前寺公園と熊本市動植物園へ行きました。水前寺公園は20年前と変わらず美しく、緑の草が生い茂る丘がきらめく湖にちりばめられ、水面の白鷺と水中を自由に泳ぐ鯉が、中国の江南園林の情景と同じ一幅の絵画のようでした。再訪でありましたが、目の前の美しい景色に心が震えました。水前寺成趣園は、私のマンションから徒歩圏内にある伝統的な日本庭園です。初代熊本藩主細川忠利(1586-1641)によって1632年に造られました。400年前に造られた水前寺公園を見て、今なお色艶やかに輝き、その洗練された姿は、日本製品の高い品質の文化の源泉である匠の精神を思い起こさせてくれます。それはまた今日の日本のサッカーを連想させるものでもあります。何年にもわたるたゆまぬ努力の結果、日本サッカーは誇りを持って世界のトップチームの中に立っています。その強さは、2022年のワールドカップでの活躍が証明しています。

秋のバスハイクも国際教育課の皆さんの周到な手配により参加することができました。1,000メートルを超える阿蘇山杵島岳に登頂し、雲と霧に満ちた阿蘇火山と金色の牧草地を眺めながら、20年前の冬にも家族と阿蘇山山頂から雪原を眺めたことを思い出し、阿蘇山の季節の移ろいを感じることもあったという間に20年の時が流れたことに驚愕してしまいました。

学業や休暇を利用して、日本各地を訪問しましたが、その旅の中でもいくつかが考えることがありました。例えば、日本の実体経済の普及には驚かされました。電子取引の空間コストは非常に高いと感じます。特に旅行中いたるところで目にした自動販売機は、私が学生向けに開講した講義『東アジア経済協力』の中で取り上げた「市場経済の本質」に関してインスピレーションを与えてくれました。市場

経済の本質とは、すべての人が自分の選択により最も得意なことを仕事とし、公平な取引により生き残っていくことであるといえます。旅行の途中で、あるレストランのオーナーは、私の拙い日本語を褒めてくれ、それは私が日本語を学ぶことへの自信になりました。また教職員向け中国語講座の中で、中国語を教えながら私は日本語を学ぶことができ、日本語がとても構造化された言語であることに感じ入りました。単語や発音を覚えるのは簡単ではありませんが、明確な五十音表は外国人の学習に大変役に立つものです。北海道大学を見て回ったときには、日本の北大の過去と現在について理解を深めることができました。特に、北海道大学の博物館のノーベル賞を受賞した鈴木章展示室では、日本の基礎科学の発達と毎年1人のノーベル賞受賞者を出していることに、羨望の気持ちを思い起こさせられました。また鹿児島島の駅前では、薩摩藩からイギリスに最初に派遣された19人の留学生の巨大な像が、明治維新後の日本の近代化を形作ったことを物語っていました。神戸大学には学会で訪問しましたが、歴史を感じさせる美しいキャンパスはとも深く印象に残りました。

熊本学園大学在職中は、目黒純一理事長、細江守紀学長、西村明博事務局長に大変お世話になりました。商学部の喬晋建先生、経済学部の朴哲洙先生、外国語学部の李珊先生と塩入すみ先生、米岡ジュリ先生、社会福祉学部の山西裕美先生、非常勤講師の本田暁美先生など、彼らの助けがなければ、ここでの仕事に大きなサポートや充実感は得られなかったでしょう。

李珊先生と立田山を散策しながら講演のテーマ設定について話したことが、南阿蘇の桜が競うように咲いていたこと、運転免許試験に落ちた時の李先生の励ましは忘れられません。教職員語学講座での授業中の山西裕美先生からの質問や松尾さんの授業前の機材や配布物の準備、英語によるビジネス講座での切通さんの全面サポート、小葉先生と学術文化課による学術研究会前のオンライン設定およびオーディオ機器の設定…。皆さんがいなかったら、私の熊本での教育と研究活動はこれほど順調に進むことはなかったでしょう。

商学部の教員として、商学部長、商学科長および先生方と交流し、両大学間の学生および教員によるさらなる交流の可能性を探りたいと、かねてより楽しみにしていました。この原稿を作成している段階でついに商学部長の伊津野先生との面会ができませんでした。私はこの面会を非常に楽しみにしています。これまでのところ、予定されていた各方面の業務はすべて完了しており、今回の来熊は悔いのない訪問になりました。

熊本はすでに私の人生の一部になりました。ここには私の同僚、友人がいて、そして元気はつらつとした学生たちがいます。彼らはこれからの日中友好交流の担い手であり、私は、より多くの若者がその恩恵を受けられるよう、日中友好・協力で人生を捧げたいと思います。コロナはやがておさまり、皆さんが中国にいらっしゃることを歓迎します。私は中国にて皆様のお越しを楽しみにお待ちしております。



千歳山の山頂にて



深圳を歩く。

経済学部教授 パク 朴 チヨル 哲 ス 洙

【2022年9月～2023年2月 交換教員として中国・深圳大学へ派遣】

1. コロナ状況と中国の地域の隔離：

コロナという前例のない状況で義務隔離を含めて約30日間の一人で隔離という経験をするようになった。毎日核酸検査実施、3回の定められたメニューの食事のみ。一步もホテルの部屋のドアを出てはいけない状況。働く人員は映画に出てくるような医療防護服を着て通った。いずれもコロナ関連の大変なことを防疫政策指示に従って実行する従事者たちであり、「ありがとう」以外に何の言葉も言えなかった。

2. 対面講義と交流：

深圳大学での講義は英語で進行する科目であり、マスクを着用しなければならなかったが、学生たちに教室で直接行う対面講義だった。管理学院は語学能力の向上を強調し、英語による専攻科目を多数開設しており、学部多くの受講希望者の中で受講能力などいくつかの基準により選抜するという。受講選抜自体が一定の評価（選抜基準通過？）であるわけだ。実際に受講生40人余りの選抜された受講生の熱意とリスニング能力は評価するに値した。何より、授業前後の学生たちとの率直な会話は忘れられない経験だった。学生たち全員が経営学専攻だったが、アニメ映画音楽など日本・韓国の文化芸術にも関心があり、講義を通じて会った中国の若い世代たちの具体的な関心事が分かった。未来の中国に今会っているような楽しさがあった。

3. 都市空間鑑賞：

深圳という都市は若い力が躍動する都市だった。もともと自然も文化的にも豊かな都市でありながらもしばしば経済的な側面だけが強調されてきたが、最近では、環境、自然そして文化的なものを融合する都市デザインが緻密に行われ、インフラがハード面とソフト面で連携した状態で整備されているため、都市全体が実験とイノベーションをしているような感じを受けた。走るバスは全てが電気自動車で、その運行記録すべてがビッグデータを作っている。香港に隣接する漁村で始まった計画都市として進化し発展した人口1760万人のメガ都市。2020年の1人の月あたりの国民所得は31,887ドル（中国国内で第3位）で、国内総生産は（GDP）3740億ドルと香港を追い越した。世界から人材と企業が集まる中国南部の経済、金融、革新、海洋物流、そして文化と環境のハブであり、実験空間になっている。

4. 深圳大学キャンパス風景：

深圳大学は中国経済特区に位置する地理的条件で、深圳地域の発展とともにわずか30年余りの間に外形的発展とともに数多くの人材を排出した。母体となるメインキャンパス以外に隣接するキャンパスそして深圳市北側に位置するサブキャンパスがあり、実に規模と内実面で成長を遂げた。昔から注目を集めてきたコンピュータ学科と建築学科は、深圳大学内で最も競争力のある学科と評価された。深圳大学出身の多くの人材が深圳のビジネス界に多数布陣しており、多くの同門がリーダー的役割を担っているという。

5. 学生寮はキャンパス内の至る所に巨大ビルが聳え立ち、大きな食堂も分散していて、実に学生村を彷彿させる。図書館もいくつか分散しており、体育施設も夜遅くまで使用可能だ。キャンパス内で勉強し、宿題し、討論して寝て食べながら何かに集中する実に学生本位のキャンパスと言えるほどだった。必要なものはスマートフォンで注文すれば中央物流センターが学内にあり、そこに行き、配達ロボットが寮の前まで配達してくれる。実に学生本位の行政支援体制という印象だった。

6. 助けと感謝：

コロナの感染危機の状況の中で皆が大変な状況だった。その中でも現地に適応できるように助けてくれた人々が多い。深圳大学国際交流協力室担当者やボランティアで随時走ってきてくれる学生の助けがなかったら、コロナで隔離の時間と事実上2ヶ月半になってしまった短い滞在期間がやりがいと楽しさによって行かなかっただろう。母の突然の他界の時の助けなど、この場を借りて感謝の言葉を伝えたい。

7. 深圳散歩：

压低翅膀赤脚走路的深圳湾河边大沙河西东。



蓮花山公園の鄧小平立像



鹿児島島の旅行（筆者は中央）



本田フィットネスボクシングジム

一期一会の経験

ヒルヤード ゲージ
ホスピタリティ・マネジメント学科4年 **Hilyard, Gage**

【2022年9月～2023年8月
米国・モンタナ州立大学からの交換留学生】

留学に来る前に海外に行ったことがなかったので、成田空港を出た途端目の前に広がる街並みに、日本に着いた実感が湧き非常に興奮しました。日本語で書いてある看板、走る電車、てっぺんの見えない超高層ビル、いずれも田舎から来て英語しか聞きなれない僕は異世界に踏み込んだような感覚がありました。

元々語学に対する興味が強く、趣味で日本の小説を読んだり YouTube を観たりすることで日本語の勉強をしていましたが、話すことは全くしませんでした。モンタナでは日本人と出会う機会が減多に無かったので、日本人の友達を作れるかどうかとても悩みました。長い歴史のある日本と比べてアメリカの文化や習慣などは物凄く異なっていると言っても過言ではないですが、みんなは察して許容してくれます。まだ4ヶ月間しか経ってないけれど、既にかげがえのない思い出をたくさん作ることができ、一生モノの友達を作ることでもできました。僕の日本語はまだ未熟ですが、留学をきっかけに多くの日本人や色々な国の方と交流ができ、日本語の勉強をした甲斐があったと思います。

おもてなし

サラミ オラクナル
商学科4年 **Salami, Olakunle**

【2022年9月～2023年3月
カナダ・カールトン大学からの交換留学生】

初めて熊本に来る時、国際教育課のスタッフの角田先生は電話で優しく助けてくれました。入国するフライトが予定より遅く着いたので、熊本へのフライトにも乗れず、到着が遅れてしまいました。とても長い移動時間でしたが、角田先生は私に電話して、落ち着かせて、近くで泊まれるホテルを教えてくださいました。その時に熊本学園大学に留学すると決めたことが最高の決定だったと確信しました。

熊本の人々と知り合うことは楽しかったです。熊本城、阿蘇山、天草や八代は日本の美しい環境を見せられる場所です。困ったときはいつでも国際教育課のスタッフという頼れる存在がいたので本当に充実していました。留学する時、経験内容に国の文化と法を分かるのがすごく難しいです。一人で初めてカナダに引っ越した時にそれを学びました。国際教育課の方々を私を手伝ってくれました。例えば、銀行口座の開設や資格外活動許可の申請、保険の手続きなどです。また、私が病気の時には病院に案内してくれました。おかげで私の留学生活の経験は本当に優しさに包まれて、充実したものになりました。いつか、この恩を返したいです。



伏見稲荷大社を旅行した時の写真



東京駅の前で友達が撮ってくれた写真



交換留学を通じて学んだこと

ホスピタリティ・マネジメント学科4年 キム ガビン 金 佳嬪

[2022年4月～2023年3月
韓国・大田大学校からの交換留学生]

日本で講義を受けることは、予想以上に難しい現実
にぶつかった気分でした。人と比べて私は漢字がとて
も苦手なので本当に心配したし、心配した通り講義の
内容は全く理解できませんでした。特に単位認定のため
に得意分野ではないことを基礎知識もない状態で、
それを日本語で勉強することは大変難しかったです。
未熟ながらも一生懸命授業について行こうとしました
が、進行が速く板書さえもとにもできない現実に挫折
しました。一度、授業がとても難しく授業の途中で
泣いたことがありました。泣きすぎて文字が書けなく
て静かに涙を拭きながら授業を聞くだけでしたが、板
書に集中しながら聞く普通の授業よりもっと分かり
やすく、授業の流れに従うと漢字も難しくなく感じま
した。おかげで、今までのやり方が私には合わない方
法だったということに気づき、私に合った勉強法を知
ることになりました。また、授業の進度に追いつけな
い場合は、先生に授業レジュメをもらったり、日本語

チューターに授業の筆記について手伝ってもらうのも
いい方法だと思います。

また、留学に来る前は良い成績を修めることが大き
な目標でしたが、今になって思えば、考えが足りなかつ
たと後悔しています。単位や成績もちろん重要ですが、
日本で留学生として生活しながらでしかできない
活動を楽しむことの方がより重要だと思いました。そ
こで、単位に集中した春学期とは違って、秋学期には
国際教育課で行われるプログラム、サークル活動、ゼミ、
留学生との親睦など、楽しむ時間をより多く過しま
した。このような過程を通じて視野を広げることがで
きました。



春のピクニックで動植物園へ
(筆者は後列右から2番目)

僕は一人じゃない

ホスピタリティ・マネジメント学科3年 グエン ホアン ロン Nguyen Hoang Long

[2022年4月～2023年3月
ベトナム・ベトナム国家大学ハノイ校からの交換留学生]

このレターを書いている今の私は、来日してあつ
という間に10ヶ月を過ごしました。1年間という期間は
かなり長いとも言えますが、私にとって今回の留学生
生活の1年間はあり得ないほど早く進んでいます。時の
流れは残酷というものでしょう。

来日する前、ワクワクしながらも日本での生活をど
のように過ごそうかという心配を抱えていました。し
かし、査証申請の手続きなどを優しく案内してくれた
国際教育課のスタッフのおかげで無事に熊本へ到着す
ることができました。それだけではなく、熊本に来て
から、日本の生活を不安なく送れるように一緒に相談
に乗ってくれたりアドバイスをくれたりしました。

熊本学園大学における交換留学は正直に言うとし
一生に一度の絶好のチャンスでした。熱心な先生方のお
陰で、日本語が上達するだけではなく、沢山の面白い
日本文化に触れることができました。授業以外に、様
々な課外活動に参加させてもらい、貴重な体験になり
ました。

熊本では、世界中の友達との出会いがありました。
国際交流会館で過ごす毎日は、多文化と多言語に触れ
ることができる環境で、面白い体験だと思います。休

日にみんなと一緒に旅行したり、おいしいものを食べ
に行ったりすることで、忘れられない思い出になりま
した。世界中の友達がいつも隣にいてくれて、ベトナム
でやれないと思っていたことがやっとなりました。
22歳の誕生日は、友達に誕生日パーティを開催してもら
い、生まれて初めてと言っていいほどの大きな喜び
と嬉しさを感じました。言葉が通じない時があっても、
私たちの強い絆で、いつも喜びや悲しみを分かち合い、
大家族になったと信じています。

この1年間は絶対に忘れられない人生の時間です。
そろそろ帰国の日が近づいていて、いつも隣にいてい
ろいろなことを助けてくれた友達と先生方にもう会え
なくなるということで、心の中から悲しさが溢れてき
ました。熊本学園大学で貴重な出会いを経験し、人生
で有意義な思い出になりました。



学長杯争奪全学生駅伝大会にて
(筆者は後列右から5番目)

新たに見つけた自分の弱点と克服

外国語学部英米学科4年 ^{たなか ゆかこ}
田中 優香子

【2022年9月～2023年5月
英国・セントラル・ランカシャー大学へ交換留学】

私はこの留学を通して自分から一步踏み出すことの重要性を改めて実感しています。日本にいたときは周りの目や相手の様子を窺うばかりで何事も受け身のことが多かったように思います。しかし、留学中はこちらから動かない限り誰も助けてくれません。逆に助けを求めると誰もが手を差し伸べてくれます。私は授業や課題などに不安があったため、その旨を予め教授に伝え、録音の許可をとったり、課題の下書きを見てもらうなど授業についていけるようサポートしてもらっていました。友達作りも、始めのうちは苦戦していましたが、自分から声をかけたり、遊びに誘ったりするようになってからは向こうからも誘ってくれるようになり、交友関係が一気に広がったように思います。最初の頃はこの一步踏み出すことに恐怖を感じてなかなか行動に移せない自分にショックを受けていました。思わぬ自分の弱点に気づかされ、このままではだめだ、と動き出したことによって私の留学生活はより充実したものになったように思います。日本に帰ってきてからも、新しい環境で踏み出す勇気を忘れずに何事にも挑戦していきたいと思いました。



イギリス人、韓国人の友人と観光でマンチェスターへ
(筆者は左)



親しい友人とフラットに集まってクリスマスパーティー
(筆者は前列右)

挑戦できた留学

外国語学部英米学科3年 ^{まつむら ゆうな}
松村 惟羽那

【2022年8月～2023年4月
カナダ・セント・メアリーズ大学へ交換留学】

私はカナダのセント・メアリーズ大学に留学しています。初めの4ヶ月は語学学校に通い、残りの4ヶ月は現地の大学生と一緒に今大学に通っています。私の留学前の目標として、友達をたくさん作り、様々なイベントに積極的に参加し、何か大学のコミュニティに属するというものがありました。全て達成することができました。最初は少し緊張しましたが、今ではすっかり慣れて友達とホストファミリーと楽しい留学生活を送っています。ここに来てから、人々の優しさに感動する毎日です。皆、とてもフレンドリーで毎日一緒に時間を過ごすことがとても楽しく、勉強になることも多くあります。また、私はバスケットボールのサークルに所属しているのですが、それも私の毎日の楽しみです。

ここで私が一番変わったと思うことは何か目標を達成するたびに、また何か新しい目標を見つけ、挑戦できるようになったことです。2月に知り合いのレストランにてボランティアでお手伝いを体験させてもらう予定なのですが、そこでの体験は大きな挑戦になると考えています。日本とは異なる接客スタイルに苦戦し、

失敗することも経験できると思います。色々な経験ができることが海外留学の醍醐味だと思うので、残りの3ヶ月も様々なことに挑戦し、頑張っていきたいと思っています。



ホストファミリーとのクリスマスパーティー



学校でのハロウィンパーティー



挑戦の留学生活

外国語学部東アジア学科3年 **宜志富 未来**
ぎしとみ みらい

【2022年3月～2023年2月
韓国・大田大学校へ交換留学】

私は2022年度の1年間韓国で留学生活を送っていました。幼いころから海外に興味があり、高校1年生からはずっと韓国に住んでみたい、交換留学したいという気持ちから大学を探し、熊本学園大学に入学を決めました。ずっと望んでいた留学が決まって、嬉しかった気持ちは今でも忘れられませんが、正直コロナ禍で隔離生活や入国手続きなどすごく大変でした。韓国に来た当初は全く韓国語を聞き取れず、話せなくて、大田大学校の授業に入っても周りの友達との差を毎日感じ、落ち込んでいました。しかし、韓国人の先生方はみんな親切で何度も私に質問してくれたり、話しかけてくれて、熱心にフレンドリーに教えてくれました。おかげで1学期が終わるころにはほとんどの韓国語を聞き取れるようになりました。韓国留学をしてよかった点は、自分の発音の間違いに気づけてすぐ直せることです。韓国語は日本語にはない発音がたくさんあります。少しでも発音が違うと、違った単語になり、聞き取れません。実際

現地で韓国語を話すことによって、伝わる発音と伝わらない発音というものをものすごく実感し、直すことができました。韓国人の方たちは発音が間違っていたら指摘してくれて、出来たら褒めてくれます。発音が1番苦手だった私にとって、とてもありがたい環境でした。



大学の行事M T (membership training) で人狼ゲームをしている様子



友達とプリクラを撮りに行った時 (筆者は左下)

積極性が大事

外国語学部東アジア学科3年 **吉田 周代**
よしだ ちかよ

【2022年3月～2023年2月
韓国・全南大学校へ交換留学】

私は、この留学が初めての海外でした。初めてがこの留学であり、コロナ禍という万全の状態ではなかったですが、色々なことを体験できた1年だったと思います。まず、日本人留学生が2人しかおらず、韓国語しか使わない日々でした。授業や友達との会話、他国からの留学生との会話も全部が韓国語でした。ネイティブからしか学べない表現などもたくさん学べ、語学力も行く前と比べれば向上したと思います。逆にこのコロナ禍だからこそその環境だったからだだと思います。また、私の大学には、いろいろな国から留学生が来ていたこともあり、国際交流が充実していました。韓国人の友達を作るだけでなく、外国人の友達も作ることができました。友達を作る上で、自分から話しかけることが大事だと気づきました。日本好きの韓国人からしたら、日本人は貴重で友達になりたいと思う人が多いですが、韓国語ができるかどうかかわからないため話しかけづらいそうです。待つのではなく、自分から行くことが大事だということを学びました。



友達と一緒にカフェに行った時 (筆者は右から2番目)



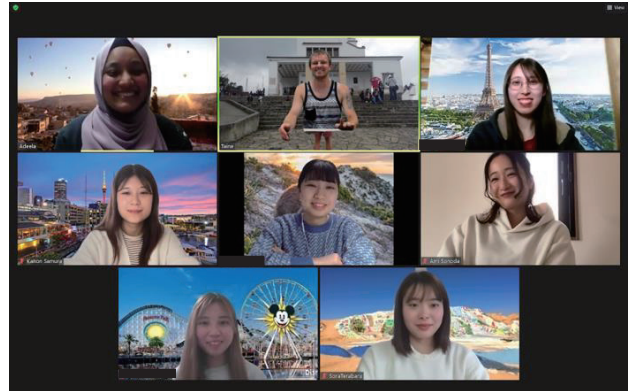
オンライン留学で得た英語

外国語学部英米学科3年 **佐村 花穂** さむら かのん

【2022年2月14日～2022年3月4日
ニュージーランド・ワイカト大学のオンラインプログラムに参加】

私は2022年の春休みに、ニュージーランドのワイカト大学のオンライン留学に参加しました。費用やコロナの関係で留学することができない中、ワイカト大学のオンライン留学を知りました。オンラインだから、何を言っているかわからなかったらどうしよう、本当に身につくのかどうかとても不安でいっぱいでしたが、思ったよりたくさんの英語に触れることができとても楽しく授業を受けることができました。自分の英語のレベルに合わせてクラス分けされ、授業では英語の基礎をしっかりと定着させる内容でした。またワイカト大学の先生が全て英語で説明や解説をしていました。日本人の学生とも全て英語で話し、先生とも話すことが多かったため、リスニングとスピーキングに力を入れることができました。期間中に一度現地の学生と交流する機会があ

り、ニュージーランドの観光地や文化について教えていただきました。わからなかった英語も遠慮なく聞くことができ、毎回しっかり教えていただいたのでとても安心して3週間のプログラムに参加することができました。このオンライン留学に参加してみて私の弱みだったスピーキング力にも自信が付き、もっともっと外国の方と交流したいと思うようになりました。英語を学ぶだけでなくニュージーランドについても詳しく知ることができとても良い経験になりました。



(筆者は中央左側)

オンラインで交流を広げる

外国語学部東アジア学科1年 **工藤 黎音** くどう れいん

【2022年8月16日～2022年8月31日
韓国・大田大学校のオンラインプログラムに参加】

私は今回、オンライン留学夏コースに参加し、韓国の大田大学校の方々と交流しました。参加するにあたって、語学力の向上と異文化理解を深めることを目標としていました。また、大田大学校の学生との交流も楽しみにしていました。振り返れば、とても充実した良い時間を過ごすことができましたと思います。

今回は熊本学園大学から私を含めた2人と、北海学園大学の学生4人の合同で授業が行われました。私たちが理解できるよう先生が配慮してくださり、スムーズに進んだと思います。先生は韓国語と日本語を混ぜて話してくださり、私たちが理解しやすいようにしてくださいました。そして、私たちもできるだけ韓国語を使い語学力の向上に努めました。

授業は、事前に配布された教科書に沿って行われました。写真やイラストが多くあり理解しやすかったです。しかし、易しすぎず私たちのレベルにあったものだと思います。先生も私たちが積極的に参加できるよう質問などをしてくださり、発音へのアドバイスなどもしてくださいました。

読み書きの力だけでなく、話す聞く力も向上できたと思います。

週に2回ほど大田大学校の学生と交流する時間がとられており、毎回違うテーマについて話し合いました。話せば話すほど韓国と日本の文化の同じところ、違うところを見つけたり、お互いについて知ることができ、楽しい時間を過ごすことができました。

オンライン留学は実際に現地に赴かずとも十分に語学や文化の知識をつかめ、楽しむことができると実感しました。そして、今回参加した北海学園大学の学生や大田大学校の学生とSNSを通じて、その後も交流を続けています。お互いの住む環境を身近に知ることができ、お互いを高めあっているのではないかと思います。

今回、このオンライン留学に参加して本当に良かったと思います。



(筆者は前列中央)



世界を知る

商学部ホスピタリティ・マネジメント学科2年 **かぼき しょうた**
梶木 翔太

私は、高校生の頃から国際交流に興味があり、本学ではベトナムやドイツとのオンライン交流に参加しました。実は、私自身このサロンの存在を知ったのが2年生の後半だったので、もう少し早く知って参加すれば良かったと思っています。そう思うほどこのオンライン交流では有意義な時間を過ごすことが出来ています。

これまで参加したベトナム、ドイツのどちらの交流でも英語と日本語を使いながらコミュニケーションを取りました。交流の1つで、自分の国のお菓子を紹介し合ったことがありました。お互い最初は緊張しており、学んできた外国語で、伝わるように必死に紹介しましたが、テーマがお菓子ということもあり笑顔が絶えないにぎやかな雰囲気での交流になりました。お互いが頑張ってコミュニケーションを取ろうという姿勢を見せたことで、自然と笑顔も生まれたのかなと思いました。この体験から、話そう！聴こう！とする姿勢はとても

大切なのだと強く実感しました。また、英語などの語学力も上がったと感じています。

コロナ禍において、海外に行かなくてもコミュニケーションスキルを鍛えることが出来るこのサロンは、絶対に参加した方が良いと思いました。スキルを上げるだけでなく、世界中に友達ができます。交流した学生とは今でも連絡を取っており、異文化に触れ続けるキッカケにもなります。これからも、サロンを活用して世界中に視野を広げていきます。



ドイツ・ハインリッヒ・ハイネ大学との交流会
(筆者は左上)

オンラインで異文化を知る

外国語学部東アジア学科3年 **まつばら ほのか**
松原 帆乃加

私がこのサロンを知ったきっかけは中国語の先生からの紹介です。はじめは完璧な中国語を話せないと話にならないのではないかと感じていましたが、リアルタイムで中国の学生と交流が出来る貴重な機会であったため参加しました。

最初の交流では中国・北京第二外国語学院の学生達で、自己紹介の際、私が集めていたアニメのフィギュアを紹介するとたくさん「知ってる！」という声があがり、嬉しかったことを覚えています。また、広西外国語学院との交流では、現地の民族文化について紹介があり、そこでは紹介された民族の歌を歌える学生がいて実際に歌ってくれました。歌声は非常に繊細で美しくとても癒やされました。他にも、おすすめの中国ドラマや有名な食べ物なども教えてくれました。

このコロナ禍で入学してから一度も留学することができず、また現地の人と交流することもなかなか難しい状況の中、こういった大学の取り組みはとてもありがたかったです。実際に現地の人と話すことで、今の現地の人が思うことや異文化を

知ることができ、私自身の視野も広がりました。近い将来には、オンラインでなく、オフラインで交流することが出来ることを願っています。



同級生と (筆者は中央)



中国・北京第二外国語学院との交流会



中国と日本の共通点と相違点を楽しむ

中国・北京第二外国語学院日本語学部2年 キョウ コウキ 姜 鴻毅

初めまして！北京第二外国語学院日本語学部の姜鴻毅と申します。私は2022年7月8日、11月4日に開催された熊本学園大学とのオンライン交流会に参加しました。この2回の交流会は、私にとって熊本学園大学について知る機会になっただけでなく、自分自身についても、みなさんと分かち合う機会になりました。今日はその中から印象的だった2つの活動をご紹介します。

1つ目は、自分の好きな漢字をお互いに紹介し合うという活動です。漢字は中国から日本に伝わったものなので、参加者全員が漢字の形や意味を理解することができます。その時に私が紹介した漢字は「姜」でした。「姜」は私の姓を表す漢字です。また、私の好物である「生姜」も指します。私の出身地の名物料理「重慶火鍋」には生姜が欠かせません。この活動を通して、漢字という中国と日本に共通する言語文化の魅力を再認識できました。

もう1つは、日本人学生が熊本県のマスコットキャラクター「くまモン」の紹介をしてくれたことです。「くまモン」は中国でも特に人気があるキャラクターです。その背景や人気の理由を知ることができて、熊本で実際にくまモンに会いたい

気持ちが強まりました。

なお、2023年4月からは交換留学生として、熊本学園大学に1年間お世話になる予定です。オンラインで交流したみなさんと実際にお会いできるのを楽しみにしております。



世界最大規模の北京大興国際空港にて



親友たちと重慶火鍋を食べながらおしゃべり
(筆者は右端)

留学生カフェ体験談

留学生カフェに参加して感じたこと

商学部商学科1年 むらかみ ゆうか 村上 裕香

参加する前はうまく話せるかなど少し不安な気持ちがありましたが、今では留学生や留学生カフェに参加している学生との交流も深まり、あの時勇気を出して参加してよかったと思っています。

実際に、留学生カフェでは趣味やお互いの出身地のことなど幅広いジャンルのことを話しており、毎回あつという間に感じるほどとても楽しい時間です。

私は語学力向上のため留学したいという目標があります。留学生に現地のことや英語の発音・イントネーションを教えてもらい、勉強へのモチベーションにもなりました。

新型コロナウイルス感染症の影響で海外との交流が難しい今だからこそ、学内で異文化に触れることができるとてもいい機会だと思います！



趣味の旅行 12月は東京へ



学園大で学ぶ私費外国人留学生を紹介します。

私は商学部商学科 1 年の張晟銘です。熊本学園大学での一年間はあっという間に過ぎました。留学生として最初は商学関連の学習と言葉の面でも困難がありましたが、授業を担当する先生方と国際教育課の皆さんの助けがあり、徐々に大学生活に適應することができました。今の私は、次のステップとしての大学生活を迎える準備ができました。

熊本に来たばかりの時は、日本語を勉強するのに一生懸命でした。今は、日本語学習や商学科での学びを通じて、私の今後の生活や進路について考え始めています。私の住んでいるアパートは大学のすぐ近くであって、親戚や語学学校の先生から熊本学園大学の評判を聞いたことがありました。今ふり返っても、正門から入ると両側に銀杏の木があって歩いてみると私の心が弾み、入学への思いが加速したことを思い出します。その時に、私はここが私の選ぶ大学だと思いました。



張 晟銘 (チョウ セイメイ) 商学部商学科 (2022 年入学)
出身校 東方国際日本語学校 (熊本県)



私はベトナムからの留学生で、現在熊本学園大学の商学部ホスピタリティ・マネジメント学科にて経営を中心に学んでいます。子供の頃からの夢だった経営学が学べる大学を選びました。ベトナムにいた時から将来は起業したいと考えていたので、日本へ留学することを決めました。そこで、親戚もいる熊本を選んだのですが、熊本がとても美しく平和な場所で、親しみを感じられるということも熊本を選んだ理由でした。熊本にはベトナムのような田舎っぽさがあります。また、日本がホスピタリティの高い国であることを知ったので、大学ではできるだけ多くのことを学び、大学を卒業して日本で働いて十分な経験を積んだら、ベトナムでベトナム料理店を開きたいと思っています。これから、自分の夢を膨らませ、より多くの経験を積むために、ホスピタリティ・マネジメント学科で学べることをたくさん学んでいきたいと思っています。

Hoang Thi Huong (ホアン ティ フオン)
商学部ホスピタリティ・マネジメント学科 (2022 年入学)
出身校 熊本 YMCA 学院日本語学科 (熊本県)

留学生と一緒に阿蘇・杵島岳に登りました！



令和4(2022)年 海外往来実績

月	派遣	受入
1月		
2月	■派遣交換留学生の出発（韓国・大田大学校 [4名]、全南大学校 [1名]）	
3月	※令和4年度サマープログラム（イギリスコース）中止	■受入れ交換教員の来熊（中国・深圳大学から冯建民先生（3/27）） ■受入れ交換留学生の来熊（韓国・大田大学校 [2名]、全南大学校 [1名]、中国・深圳大学 [2名]、ベトナム・ベトナム国家ハノイ大学校 [1名]、ドイツ・ハインリッヒ・ハイネ大学 [1名]） ■学部研究留学生の来熊（中国 [2名]）
4月	※令和4年度海外就業体験プログラム募集中止 ※令和4年度交換留学生（台湾）派遣中止	
5月		
6月		
7月	※令和4年度交換留学生（中国）の派遣中止	
8月		
9月	■派遣交換留学生の出発（カナダ・セント・メアリーズ大学 [1名]、英・セントラル・ランカシャー大学 [1名]、韓国・大田大学校 [2名]） ■派遣交換教員の出発（中国・深圳大学へ朴哲洙先生（9/5））	■受入れ交換留学生の来熊（米・モンタナ州立大学 [1名]、カナダ・カールトン大学 [1名]、セント・メアリーズ大学 [1名]、英・セントラル・ランカシャー大学 [1名]、豪・ラトロップ大学 [1名]、中国・北京第二外国語学院 [1名]、ドイツ・ハインリッヒ・ハイネ大学 [1名]）
10月	■社会福祉学部交換留学生の出発（ドイツ・ハインリッヒ・ハイネ大学 [1名]）	■米・モンタナ州立大学国際企画・交流部長来学（10/24）
11月		
12月	■派遣交換留学生の帰国（韓国・全南大学校 [1名]）	■米・モンタナ州立大学国際交流ディレクター一行来学（12/5）

令和4(2022)年度 オンラインプログラム派遣及び国際交流の実績

プログラム名	研修期間		研修派遣先	参加人数
オンラインプログラム（夏・春コース）	令和4年8月	4週間	中国 北京語言大学	1
交換留学支援プログラム（夏・春コース）	令和5年2月～3月	4週間	中国 北京語言大学	1
経済学部 国際インターン実習	令和4年12月～令和5年1月	5回	インドネシア デンパサール・マハラスワティ大学	9
外国語学部 英米海外研修	令和4年8月～9月	6週間 （計12回）	米・ミシシッピ大学	2
日本語教員養成課程実習	令和4年10月～12月	オンライン交流3回 対面交流4回	技能実習生の来日前および来日後交流 （ミャンマー、ベトナム、フィリピン）	19

オンライン留学サロン

交流相手大学		使用言語	学期	実施回数	参加者実数	参加者延べ数
韓国	大田大学校	韓国語・日本語	春学期	25回	6名	27名
			秋学期	1回	14名	14名
中国	北京第二外国語学院	中国語・日本語	春学期	2回	13名	15名
			秋学期	1回	2名	2名
	広西大学および広西外国語学院	中国語・日本語	秋学期	2回	7名	9名
台湾	国立高雄科技大学	中国語・日本語	春学期	22回	3名	22名
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校	英語・日本語	春学期	1回	10名	10名
			秋学期	4回	23名	40名
アメリカ	モンタナ州立大学	英語・日本語	春学期	2回	17名	32名
ドイツ	ハインリッヒ・ハイネ大学	英語・日本語 ・ドイツ語	春学期	18回	16名	36名
			秋学期	3回	10名	12名
※授業でのサロン又は交流会実施も含む				総計（年間）	81名	219名



令和 4 (2022) 年度 研修団往来

受入	研修団名	研修期間	期間	団員数
	なし			

派遣	研修団名	研修期間	期間	研修・派遣先	団員数
	なし				

海外への派遣学生数

	派遣先大学名	令和 4 (2022) 年度				令和 3 (2021) 年度まで						
		交換1年	交換1学期 ⁴	短期認定 ³	サマーP ²	交換	短期交換	短期認定 ³	サマーP ²	HSP ¹	短期派遣	
アメリカ	モンタナ州立大学					77						25
	モンタナ大学					21						
	キャロル大学					29						22
	ロッキーマウンテン大学											4
	インカーネットワード大学					35						
	アワーレディオブザレイク大学 (熊本市交流事業)					7						
	ウィスコンシン大学オークレア校					10	9					
ハワイ大学マノア校アウトリーチカレッジ			3				2					
カナダ	セント・メアリーズ大学	1				35	2					
	カールトン大学					10						
イギリス	リバプールジョンモーズ大学					41	11					91
	アルスター大学					8						19
	セントラル・ランカシャー大学	1				7			100			
フランス	リヨン商科大学					2						
	ボワチエ大学					1						
ドイツ	ラインランド・プファルツ州立経済大学											16
オーストラリア	ラトロープ大学					31	5				124	
ニュージーランド	ユニテック工科大学					28	8		22	103		14
	クライストチャーチ工科大学			6		1		23				
韓国	大田大学校	4	2			97						
	全南大学校	1				2	3					
中国語圏	深圳大学					61						
	中国人民大学					8						
	北京外国語大学					14						
	北京語言大学					11						
	北京第二外国語学院					12						
	広西師範大学 (熊本市交流事業)					9						
	崑山科技大學					4						
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ校					9						
タイ	チュラロンコーン大学					4						
	合計	7	2	9	0	574	38	25	122	227	191	

※ 網掛けの協定校は、現在交流を行っていない大学
 ※ 短期派遣留学 (2ヶ月派遣) は、平成 18 年度をもって終了
 ※ 短期交換留学は、令和元年度をもって終了
 ※ 短期語学ホームステイプログラムは、平成 24 年度をもって終了
 ※ サマープログラム (1ヶ月派遣) は、平成 25 年度開始
 ※ 短期認定留学は、平成 28 年度開始

*1: 短期語学ホームステイプログラム
 *2: サマープログラム
 *3: 短期認定留学
 *4: 交換 1 学期 (短期交換留学を含む)



令和4(2022)年度 出身国・地域別外国人留学生数

春学期

令和4(2022)年5月1日現在

国 籍 (国・地域名)	学部学生					研究生			大学院生						交換 留学生	合計	
	1	2	3	4 以上	計	学部	院	計	修1	修2 以上	会計専 門職1	博1	博2	博3 以上			計
中 国	1	7	10	9	27	2		2	2	3	2				7	2	38
韓 国																3	3
タ イ				1	1												1
ベ ト ナ ム	1				1											1	2
ド イ ツ																1	1
合 計	2	7	10	10	29	2	0	2	2	3	2	0	0	0	7	7	45

※「留学」の在留資格を持っている学生のみ。

秋学期

令和4(2022)年10月1日現在

国 籍 (国・地域名)	学部学生					研究生			大学院生						交換 留学生	合計	
	1	2	3	4 以上	計	学部	院	計	修1	修2 以上	会計専 門職1	博1	博2	博3 以上			計
中 国	1	7	10	9	27	2		2	2	4	2				8	2	39
韓 国																3	3
タ イ				1	1												1
ベ ト ナ ム	1				1											1	2
米 国																2	2
カ ナ ダ																1	1
ポ ル ト ガ ル																1	1
オーストラリア																1	1
ド イ ツ																2	2
合 計	2	7	10	10	29	2	0	2	2	4	2	0	0	0	8	13	52

※「留学」の在留資格を持っている学生のみ。

令和4(2022)年度 留学生の主な参加行事

名 称	主 催	内 容	期 日
留学生ピクニック	熊本学園大学国際教育課	水前寺成趣園散策と熊本市動植物園散策	5月14日(土)
春の新入留学生歓迎会	熊本学園大学国際教育課	新入留学生の歓迎会	6月8日(水)
ウェルカムパーティー春	熊本留学生交流推進会議	新入留学生との交流会(オンライン開催)	6月11日(土)
留学生 Day Trip to 清和文楽	熊本留学生交流推進会議	伝統的芸能人形浄瑠璃「文楽」の観劇	7月17日(日)
第1回ワールドワイドパンクラブ	熊本学園大学日本語クラブ	熊本の米粉を使ってスコーン作り	9月29日(木)
秋の新入留学生歓迎会	熊本学園大学国際教育課	新入留学生の歓迎会	10月5日(水)
ウェルカムパーティー秋	熊本留学生交流推進会議	新入留学生との交流会 (対面とオンラインのハイブリット開催)	10月22日(土)
孫中山先生ゆかりの地、荒尾市日帰りバス旅行	熊本県日中協会、荒尾市日中友好促進会議	荒尾市宮崎兄弟生家見学および日中文化交流会	10月22日(土)
秋の留学生バスハイク	熊本学園大学国際教育課	阿蘇・杵島岳登山	11月5日(土)
第32回外国人留学生弁論大会	熊本学園大学国際交流委員会	本学留学生の日本語による弁論大会	12月10日(土)
留学生ショートムービーコンテスト	大学コンソーシアム熊本	熊本留学の魅力をもPRする映像作品を作成するコンテスト	授賞式 12月17日(土)
多文化共生留学生シンポジウム	熊本留学生交流推進会議	「今、自分の国での話題のニュース」をテーマに発表	12月17日(土)
第47回学長杯争奪全学生駅伝大会	熊本学園大学体育常任委員会	チーム「天下無双」として出場	1月7日(土)
第24回米国人留学大学生との交流会・新春のつどい	熊本日米協会	米国人留学大学生と協会会員の交流会	2月7日(火)

国際交流委員会メンバー
(2022年4月～)

委員長 浪本 浩志
 商学部 石貫 文子
 経済学部 佐藤 加寿子
 外国語学部 ティビッド・オストマン
 社会福祉学部 上原 真幸
 大学院 宅間 文夫
 国際教育課 切通 しのぶ

国際教育課スタッフ
(2022年4月～)

課長 切通 しのぶ
 係長 北原 かおり
 角田 あかね
 松尾 友美子
 国際交流会館 原 伸一



〒862-8680 熊本市中央区大江2丁目5番1号

TEL 096-364-5161(代)

FAX 096-372-4112

[ホームページ] <http://www.kumagaku.ac.jp/office/kokko>

[facebook] <https://www.facebook.com/kumagakukokko>

【 国際教育課 】



HP



Instagram



Facebook

学校法人 熊本学園

熊本学園大学・大学院 | 熊本学園大学付属高等学校

熊本学園大学付属中学校 | 熊本学園大学付属敬愛幼稚園

熊本学園大学 国際交流レター 2022 vol.44
編集・発行 熊本学園大学国際教育課
発行日 令和5(2023)年3月